

印度人の
別墅に投
宿

地形

を距る四里強の地點は、英吉沙爾廳と葉爾羌府との境界に當れり。巴什欄干は人家約二百戸、南山遙に四里餘の邊に聳ゆ。二十八日、行くこと約一里の地點より沙丘相續き、サイランガル、チャーレク(人家約四百戸)、スゲトブラク(人家約五十戸)、ホシャワットの諸部落を過ぎ、オーパ河を渡る。該河は其の左岸にカラコル村、右岸にベキラ村ありて彼のスゲトブラクは八年前の新開に係ると云ふ。斯て午前十一時、行程約十里葉爾羌の西門に達し、次で漢城、回城を過ぎ、印度人某の別墅に投宿す。

喀什噶爾及葉爾羌間の道路は、東南に向て行走し、右方即西南は、近く葱嶺の山脈を望み、左方即ち東北は直に沙漠に接す。河川は總て細流のみなるが、兩岸斷崖數丈に及ぶもの多く、橋梁に由るの外、到底渡河すべからず。且つ喀什噶爾附近に於てのみ道路と並行するも、他は皆道路に正交すれば、沿途の部落自ら東西に短く、南北に狹長なるを常とし、各部落の附近には、好個の牧場あり、牧畜到る處に盛なり。各部落内は、楊柳及諸種の果樹繁茂せり。沙島外は絶えて灌木蘆葦の生ずるもの無く、單に牧草の叢生するか、又は全然沙磧のみなるが故に路上塵埃多く、旅客は騎馬にて之を避け、且つ細砂車輛を嚙みて、車行困難なれば、貨物の運搬も亦多く驢背